

KSK

発行 KSK 神奈川県障害者定期刊行物協会
〒222-0035 神奈川県横浜市港北区鳥山町1752番地
障害者スポーツ文化センター横浜ラポール3F 横浜市車椅子の会内

あゆみ会報

2022年 1月号 第173号

編集 湘南あゆみ会
〒254-0807 平塚市代官町21-4 SEA平塚ビル3F フレンズ湘南内
TEL/FAX 0463-24-0420
定価 50円（会員は年会費に含まれています）

謹んで新春の お慶びを申し上げます



令和4年(2022年)元旦

新しい年を皆さまお元気で迎えてようか。

新型コロナウイルスが完全に終息しない中で再び新たな年を迎えることになりました。コロナウイルスの完全な終息を願いながら、今年も精神保健福祉の前進を願い家族会活動を続けていきたいと思います。「精神障害にも対応の地域包括ケアシステム」が計画通りに実施されるように、私たちも関心を持ってかかわっていきましょう。

湘南あゆみ会は会員の皆さまのお元気を願って活動を続けてまいります。

今年も
よろしく！



報告

12月定例会 SST勉強会

12月14日（火）ひらつか市民活動センターにお元気な高森先生を迎えて行われました。

初めての方3名を含め17名が参加しました。

この日は、症状の悪化には周りの環境が大きく関わっていることが、いくつかの例から説明されました。概要を報告します。

イタリアの医師バザーリアは「自由こそ治療だ」と叫んで、人間を人間として扱わない精神病院から人々を地域に開放し、医者の上からの押し付けの治療が病気を悪くしているとして病院を撤廃した。また、狂気を病気から切り離し、家族、仕事、環境など社会的要因からの現象であるとした。狂気は深い悲しみに裏打ちされた表現である。医師はこれにどう応えられるか（冊子「心の病は愛で癒す」から引用）。また家族の影響、例えば完璧主義、厳格すぎる父親、また独断専行で突っ走る親等の影響を受けて症状が良くなる人いない人もいる。ある人は恐ろしい声に悩まされて入院したが、医者は聞き流せというばかりで何もよくならずに退院した。原田誠一医師は幻聴を「正体不明の声」と説明しているが、不安・不眠・孤立・過労の4つが揃えば誰にでも起きる。幻聴は本人には本当に聞こえていることが脳波から証明された。否定すると却って孤立させてしまう。幻聴で大きな声を出してしまう時は、枕などで口を押えて叫ぶことをお勧めする。

ある人は、「働かざる者喰うべからず」と言われ食事を摂らなくなったが、病人には2つの権利が

ある。1つは休養の保障、もう1つは就労の免除である。たばこ・コーヒーは薬と逆行の作用がある。ストレスを与えない環境また受けない方法を考える事も大切。また親亡き後の不安ばかりを与えないように。楽しみが持てるようになると自信もついてくる。

一人の方から息子さんがユーチューブを通じて世界に友達ができ、とても元気になったという嬉しい報告もありました。



これからの予定

2月定例会

心理勉強会

2月28日（月） 13:30～16:00

ひらつか市民活動センター△会議室

心理カウンセラーの井上雅裕氏を招いて行動の陰にある心理を学びます。

＊ ＊ グループホーム見学は延期します。

3月定例会

◆平塚福祉会館まつり

日時：3月18日（金）19日（土）

10時～15時

場所：平塚福祉会館

例年、秋に行われている福祉会館まつりですが、コロナ禍の影響で3月に変更になりました。

東北支援昆布・わかめ、花苗などの販売部門に参加します。是非見に来て下さい。



特別寄稿

「誰もが理解しあえる社会とは」

第40回全国中学生人権作文コンテスト

中央大会奨励賞受賞作品

横浜市本宿中学校 3年 和田美珠さん

病気を隠す。ある一般的な考えです。他人に迷惑をかけないように、自分の病気を隠す。これは正しい事なのでしょうか？

私の両親は精神障害者です。健康な人とは少し違います。私は、幼い頃から親の病気を知っていました。我が家の教育方針が病気を隠さないという事だったからです。父の症状は、今来た道に戻ったり、嫌な数字を見てしまうと、お風呂に入り直すなど少し理解しがたい病気です。そして母は、症状が出てしまうと、何にも考えられなくなり動けなくなる。夕飯などが全く作れなくなります。その中で、生活してきた私は症状が出てる親と街を歩くと、大人の冷たくて痛い視線がとても嫌でした。出来るだけ友達と会いたく無かったんです。でも、そんな親が居るからこそ学ぶ事もあります。それは精神障害者だろうが、無かろうが幸せに暮らせるし、あまり障害を持っていない人と変わらないという事です。大変な事はもちろんあるし、私だって、両親の障害を理解しにくい事もあります。しかし、小さい頃から病気の事を伝えてきてくれたからこそ、症状が出てる時の対処法が分かります。障害のある両親だけど、色々な家族の幸せのカタチがあるように、我が家の幸せのカタチがあります。

障害を隠さないで生きる。今の、精神障害者の人々はそれがとても難しい事らしい。私も前、引っ越しをする事になった時、両親が「精神障害者です。」と言うと、すぐ断られてしまった事があります。両親が受けている相談の中にも、「子供に病気の事を隠した方が良いですよ？」という相談が来ます。私は病気の事を隠されて来なかったか

からこそ、「そういう家庭もあるんだなあ。」と考えさせられます。

今の社会は、精神障害者に対してのイメージがとてつもないと思います。すぐに暴れるのでは無いか？人を殺すのでは無いか？何も知ろうとしない人がそうやって、自分とは違う人に対して固定観念を持ってしまう。これが本当に障害者が生きやすい世の中なのではないでしょうか？何故、精神障害者と、人を殺すと思うのでしょうか。この病気を持って居ない人でも、人を殺す人だって居るはずですよ。精神障害者だろうが無かろうが、良い人だって悪い人だって居ると思います。精神障害者に対して悪いイメージを持つ人が多いからこそ、隠さなければいけないと思う人が多いのだと思います。本当にこれが、誰もが生きやすい世の中なのではないでしょうか？結局は、自分が良ければ良いという考えになってはいませんか？

私は思います。大切な事は、伝えていくという事です。精神障害についてもっと伝えていくべきだと思います。身体に障害のある人とは違い、精神障害者は目に見える障害では無い為、助けを求めづらい。だから、もっと伝えていって、理解してもらうことが大切です。そうしていく事で、精神障害者が肩身を狭くして生きる事が、少しでも減るのでは無いかと思います。色々な人が居るし、色々な意見があると思います。でも、それは良い事です。しかし、一概に精神障害者の全員が全員悪い人だと決めつけないでほしいです。そして精神障害者が自分の病気を隠さずに、自分らしく生きられる社会になってほしいと思います。その為に私は、この両親の元に生まれたからこそ、これからも伝えていきたいと思っています。

（和田美珠さんは2年前の「県民の集い」にパネラーとして出演して下さった和田千珠子さんのお子さんです。この度、美珠さんの作文が、法務省と全国人権擁護委員会連合会で実施した、全国中学生人権作文コンテストにおいて、横浜市人権擁護委員会賞、神奈川県大会最優秀賞、中央大会奨励賞を受賞したため、特に寄稿していただきました。）



エッセイ 『心（の病）』と『障害（者）』

ある日の夕食後、居間のソファで新聞を読んでいる小Xに冗談半分に話し掛けた。「オイお前、お前たちの病気を心の病って言うけど、心なんか何処にも無いし」「解剖したって出てこないよな・・・」と。普段の小Xなら私の冗談や冗句にせいぜい『さぶ〜』と言って応えるだけだが、この日の小Xは違っていた。すぐに新聞を畳むと真顔になって『そうだよねお父さん。心なんて何処にも無いし見えないよね』『それが病んでいるって、どうしてわかるの？』『心って人間の根幹だから・・・』『それが病んでいると言われるのは凄く嫌なんだ・・・』『人間失格見たいな気がして・・・』と一気に捲くし立てた。何時もの小Xを見ている私には、別人のように思えた。それだけ小Xは『心の病』という言葉が嫌悪なのだろう。

人は意志の疎通（コミュニケーション）に主に言葉と文字を使うが、その使われ方、用い方は、時として対象者をそっち除けて『無神経』に使われる事もあるようだ。小X達（精神障害者）に使われている『心の病』という言葉も、その一つではないか？

もう一つ気になるのが、『障害』という言葉だ。もっとも運動会の障害物競走の『障害』は気にならないが、障害という文字が『人（者）』に結びつくと『障害』になり『異議あり！』と声をあげたくなる。

思い過ぎでしょうか？健常者が『障害者』の語句を口にする時、彼ら（障害者）に対して優越感や哀れみや蔑み等の思いは皆無なのだろうか？また当事者（障害者）自らが、『障害者』という言葉

口にする時、彼ら(障害者)は劣等感や肩身の狭い思いや濟まなさ等に苛まれないのだろうか?

『障害』の直訳は『妨げて害になる』のだから『障害者』は『妨げて害になる者、害をなす者』という事になる。最初に『障害者』と名付けた人やそれを用いる人達が、このような視点に立っていたとは思わないが、結果は結果として受け止めて頂きたいと思う。

『名は体を表す』という言葉の通り語句の重みは意外と大きい。いくら社会が福祉や介護や介助に力を入れても、その根底に『障害者』という言葉が鎮座しては、折角の取り組みも艶消しの感がある。

最近、改修をリニューアルと言ひ、選手交換をトレードと言ったりして好感を持たれている。どなたか『心』や『障害者』に変わる『良い語句』を探して頂けないものだろうか?これも福祉介護介助事業の一環では・・・。

(海老名市精神保健促進会 2πr の許可を得て
2πr 通信より転載)



平塚市基幹相談支援センター設立 について

去る11月1日 平障連では、平塚市基幹相談支援センター設立について、宮崎勤氏(かながわケアマネジメント従事者ネットワーク副理事長)よりお話を伺いました。

宮崎氏のお話では、2年前に平塚市自立支援協議会で、基幹相談支援センターの設立を提案しましたがそのままになっており、現在平塚市には基幹相談支援センターがありません。そのため、自立支援協議会が形骸化し審議が深まらず、充分その機能を果たせていません。例えば、困難ケースが発見されても、3つの市委託事業所、サンシティひらつか(知的)、ソーレ平塚(身体)、ほっとステーション平塚(精神)のどの事業所が対応す

るのかはっきりしません。

基幹相談支援センターは、地域の相談支援の中核的役割を担う機関として次のような業務を行います。

- ①総合的・専門的相談支援
- ②地域の相談支援体制の強化

地域の相談事業者の指導、助言、人材育成
連携強化

- ③地域移行・地域定着の促進

障害者支援施設や精神科病院などへの地域移行の普及啓発

- ④権利擁護・障害者への虐待防止

成年後見制度の利用支援事業 など

出席した障害者団体のみなさんからも自立支援協議会の充実を求める声、重複障害児者等への支援の充実など、基幹相談支援センターの設立を求める声が多く出ました。

障害者支援に重要な働きを持つこのような機関が平塚市にも早く設立される事を願います。

(谷田川記)

精神保健福祉ボランティアグループ

こんぺいとうの予定

1/8(土)お茶会	中央公民館 3F 和室
1/15(土)定例会	福祉会館第3会議室
1/22(土)お茶会	中央公民館 3F 和室
2/12(土)お茶会	同じ
2/19(土)定例会	会場未定
2/26(土)お茶会	中央公民館 3F 和室
3/12(土)お茶会	同じ
3/19(土)定例会	会場未定
3/26(土)お茶会	中央公民館 3F 和室
時間	毎回 13:30~
お茶会参加費	100円

※※ サロンあゆみのお知らせ ※※

寒い日々が続いていますが

2月、3月とも予定通りに開催します。

第3金曜日 午後1時より

ひらつか市民活動センター

